

閣僚・議員が靖国参拝

首相は玉串料 参政からも大挙

侵略戦争を美化

小泉進次郎農林水産相と加藤勝信財務相は15日、東京・九段北の靖国神社を参拝しました。終戦記念日の閣僚参拝は6年連続です。石破茂首相は自民党総裁として代理人を通じて私費で玉串料を奉納。自身の参拝



靖国神社に参拝する「みんなが靖国神社に参拝する国会議員の会」の議員ら15日、東京都千代田区

は見送り、東京・三番町の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で献花しました。↓関連の面
昨年10月の石破内閣の発足後、春と秋の例大祭を含め、節目に閣僚参拝が確認されたのは初めてです。小泉氏は同日の記者会見で「初当選以来、毎年の行動だ」と述べました。
このほか、自民党の高市早苗前経済安全保障担当相や小林鷹之元経済安保担当相らも参拝。記者団から中国や韓国への影響を問われ、高市氏は「それぞれの祖国のために命をささげられた方に、互いに敬意を持つて哀悼の誠をささげ合える世界になればいい」と私見を述べました。
参政党は神谷宗幣代表をはじめ所属国会議員18人全員を含む計88人で集団参拝。日本保守党の百田尚樹代表も参拝し、野党の極右勢力が大挙して姿を見せました。

一方、自民党を中心とする超党派の「みんなが靖国神社に参拝する国会議員の会」(会長・逢沢一郎自民党衆院議員)の参拝人数は昨年の120人から減り、86人(議員52人、代理人34人)となりました。自民党のほか、日本維新の会の11人(議員7人、代理人4人)、国民民主党の5人(議員4人、代理人1人)、参政党、日本保守党、諸派・無所属の議員それぞれ1人ずつが含まれています。

靖国神社は、「日本の過去の侵略戦争を『自存自衛』『アジア解放』の『正しい戦争』だったと主張する施設。閣僚らの参拝は、こうした主張と同じ立場に身を置くことを示すものです。また、参拝や記帳、玉串料の奉納は宗教行為であり、閣僚や国会議員によるこれらの行為は、憲法が定めた政教分離の原則に反します。」

参政党88議員、集団参拝

参政党は終戦記念日の15日、神谷宗幣代表はじめ全国会議員18人と地方議員70人で東京・九段北の靖国神社に参拝しました。特定の党派がこれだけの規模で靖国神社を集団参拝したのは前代未聞です。

参拝後、神谷氏は記者団から参拝の意味合いを問われ、終戦80年の節目と「参議院選挙で大きな期待を皆さんからいただいたことを挙げ、全国会議員に参拝を呼び掛けたと明らかにしました。首相の参拝について「総理も参拝していただきたい」と主張。参拝に対する近隣諸国からの批判を問う質問には回答を避けました。

神谷氏が参拝を終え玄關から現れると、日の丸の旗など日本軍を連想させるグッズを身につけた支持者から「神谷さん、がんばれ」「自民党を倒してくれ」などの声がとび、大きな拍手喝采が起こりました。その後、神谷氏は一般の参拝者らが並ぶ拝殿の前に移動。



靖国神社に参拝し、記念撮影する参政党の議員ら15日、東京都千代田区

少なくとも50人以上の参政党の国会・地方議員と一堂に並び、写真撮影しました。社内で参政党の「集会」が開かれる異様な状況となりました。

同日に参政党が発表した談話は「大東亜戦争から終結80年」「西洋列強の帝国主義の掟(おきて)に合わせて軍事力を競い抜いた70年の歩みは、大東亜戦争の敗戦によって幕を閉じました」と述べますが、戦前に日本が行った中国や東南アジア諸国への侵略や朝鮮半島の植民地化には触れていません。